

経営比較分析表／団体全体（令和4年度決算）

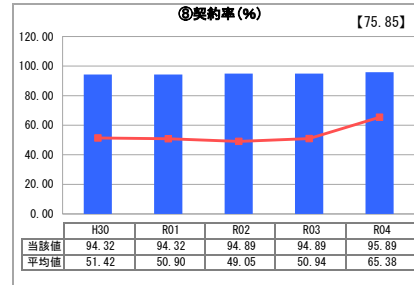
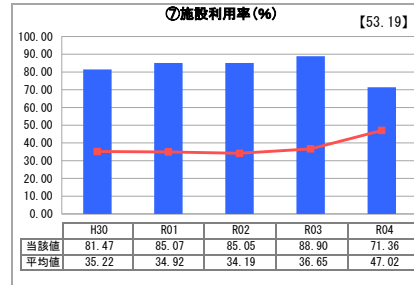
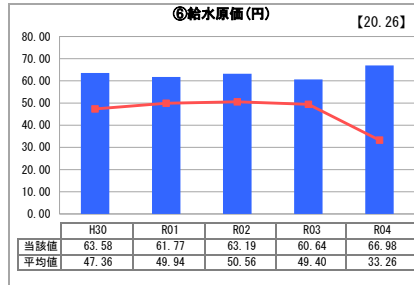
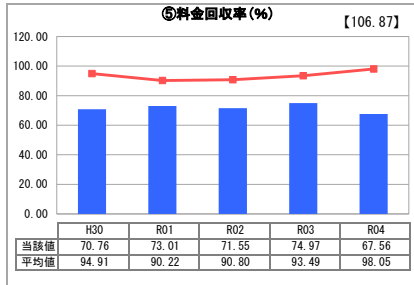
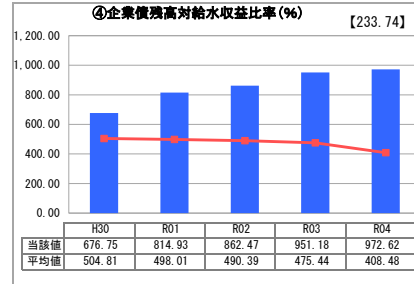
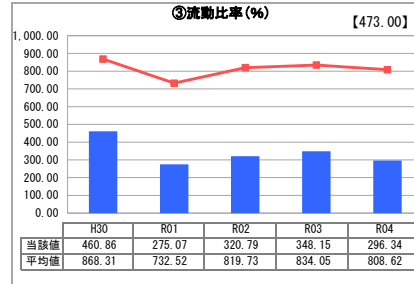
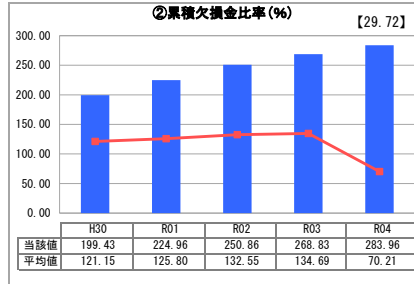
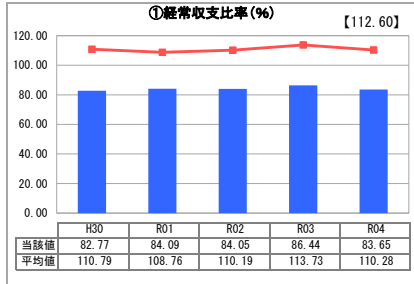
長崎県 大村市
【事業概要】

業務名	業種名	現在配水能力(合計)(m ³ /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m ³)
法適用	工業用水道事業	10,950	小規模	1	7,814
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量(m ³ /日)	管理者の情報	
-	44.4	4	10,500	自治体職員	

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率
100%を下回る状況が続いており、経営改善に向けた取り組みが必要です。
- ②累積欠損金比率
維持管理費の増加等により、収益の収支の赤字が続いているため累積欠損金が増加しています。
- ③流動比率
100%を上回っていますが、類似団体平均と比較して低く、短期的な支払能力に乏しい状況であると言えことから、今後、資金の確保を行っていく必要があります。
- ④企業債残高対給水収益比率
類似団体と比較して数値が高いのは、過去の大型事業の費用を企業債で賄ったことによるもので、料金収入の約1.0倍近くの企業債残高を抱えています。
- ⑤料金回収率
類似団体と比較して数値が低いのは、工業用水道料金収入の伸び悩みによるものです。
- ⑥給水原価
前年度と比較して数値が高いのは、動力費と修繕費が増加したためです。
- ⑦施設利用率
類似団体平均と比較しても高い数値で、施設を効率的に利用しています。施設利用率が高いということは、予備能力が不足していることになり、配水能力の増強を考慮していく必要があります。
- ⑧契約率
契約水量の増量変更があり、前年度と比較して増加しています。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率
類似団体と比較して低い数値となっています。今後は管路や施設の経年化率が上昇し、計画的な更新が必要になります。
- ②管路経年化率 ③管路更新率
法定耐用年数に達した管路が無いため、現時点ではありませんが、今後耐用年数を向かえる管路が増え多額の更新費用がかかるため、費用の平準化を図り、計画的な施設更新を行っていく必要があります。

全体総括

本市は、工業用水道料金収入の伸び悩みにより収益的収支が赤字となり、累積欠損金が増加しています。そのような中、水需要に対する新規水源開発を実施し、厳しい経営状況となっています。今後も、契約水量の増量などで収益を確保し、効率的な事業運営で施設等の維持管理に努め、工業用水を安定的に供給していく必要があります。

2. 老朽化の状況

